

あなたのおかげです

15年前のこと。解体工事を中心に営業していた私は、不動産屋の紹介で解体見積りに出向いた。その日は、気持ちの良い暖かい春だった。庭木が美しいその古民家にたたずんでいたのは人の良さそうな老夫婦。

挨拶を済ませ、解体工事に関わる説明を行ったあと、老夫婦が思い出を語る。「この部屋はね、息子の部屋だったの。今は東京で働いてるの」、「それと、この桜の木は娘が生まれた時に植えたの」、「たくさんの思い出が詰まったこの家を壊すのがこわいの」と。

解体工事は、ただ建物を壊すだけではない。その家庭の歴史や思いをしっかりと汲み取り、愛情を込めて仕事をする。私にとってはいつも一つの現場。でも老夫婦にとっては一生に一度の出来事。解体工事が終わる頃、何度も顔を合わせていた私たちには、どこかしら「絆」が生まれていた。解体費用の支払いは銀行振込。もうお会いすることはない。

その後は、仕事に追われる日々。

あくる日、会社に通の封筒が届いた。差出人はその老夫婦だった。

その内容は私に対しての感謝の言葉が綴られている。涙が出るほどの温かい文面。やわらかな文字。社会人になって初めてもらった感謝の手紙。私がやってきたことは間違っていないと、自信がついた。

そして仕事でつまずいた時、辛い時は必ずこの手紙を読み返す。

それから、5年後。

同じ不動産屋から家屋の解体見積り依頼がきた。出向いた先は、あの老夫婦が移り住んだ家だった。胸の鼓動は高まった。御礼を伝えなきゃ、と。玄関を上がり、室内を見渡した時、奥の部屋におばあさんがポツンと座っていた。私はすぐに駆け寄ろうとした。その時、不動産屋が「あのおばあさんはもう認知症なんです。おじいさんが2年前に亡くなってからね」と。

私はその場にたたずみ、空白の時間だけが流れる。

そして私は心の中でこう伝えた。「今、私が自信をもって仕事に打ち込めるのはあなたの手紙のおかげです」、「あなたからの手紙は私の一生の宝物です」と。

その日も、気持ちの良い暖かい春だった。